

海洋人類学研究室による水中考古学プロジェクト

東京海洋大学海洋工学部海事システム工学科教授 岩淵聡文(いわぶち あきふみ)

iwabuchi@kaiyodai.ac.jp

(1) 研究目的: 世界最先端の海洋工学の技術により、日本における水中考古学の飛躍的な発展を希求する(文系理系の融合)

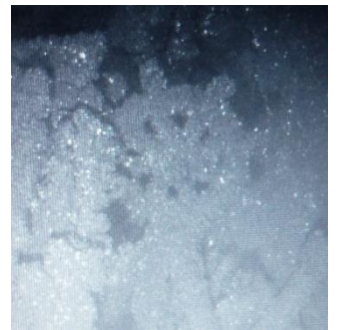
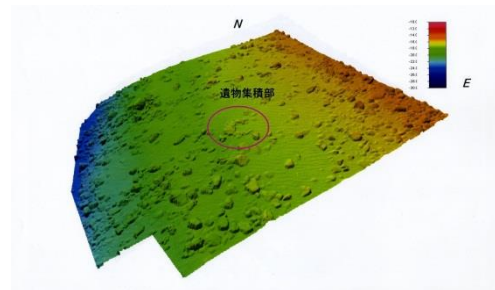
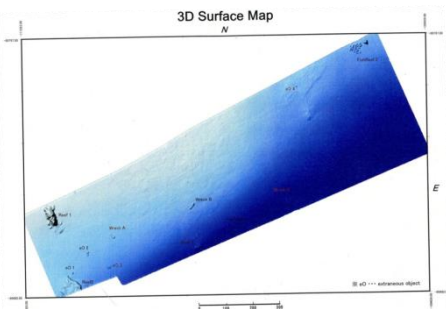
背景: ユネスコの「水中文化遺産保護条約」発効(2009年)を機会に、世界各国は水中文化遺産の保全と研究を国家規模で強化推進

マルチビームソナーによる
バシメトリー(山形県飛島沖)

ROV(遠隔操縦ロボット)による
北前船の四爪錨遺構画像

マルチビームソナーによる17世紀
の沈没船遺構(熱海市初島沖)

米ヒューロン湖の
沈没船遺構(舵輪)



(2) 新しい水中考古学の調査研究手法の提案

水中文化遺産の探査・同定
(サイドスキャンソナー・ROV)



遺構検出図の作成
(AUVによる画像撮影)



埋蔵文化財包蔵地指定
(原位置保存)

(3) 国際プロジェクト(日本・アメリカ・EU)



米ヒューロン湖でのウッズホール海洋研究所・
アメリカ商務省海洋大気圏局との共同実験



AUVによる江戸期廻船遺構のマッピング作業(熱海市、初島沖)

(4) ユネスコ・イコモス(国際記念物遺跡会議)との連携

東京海洋大学(岩淵研究室)は、イコモスの国際水中文化遺産委員会日本代表が主催するユネスコの「水中考古学大学連携ネットワーク」メンバー校に指定されている



第1回ユネスコ水中考古学
大学連携ネットワーク会議
(於セルジュク大学、ケ
メル市、トルコ、16-18 May
2013)

(5) 研究成果



H. Kondo & A. Iwabuchi,
“Deepwater Archaeology
off Tobishima Island of
Northern Japan”,
pp. 251-259: 日本初の
深海考古学(50M以深)
の学会(第1回アジア太平
洋地域水中文化遺産会議)
発表論文



林田憲三、「玄界島沖の『中世
交易船』探査」、44-47頁: 1994
年以来断続的に実施されている
博多湾沖の玄界灘における沈
没船遺構探査に関する論文で
である。本プロジェクトにより周辺
部のバシメトリーが得られている。
岩淵聡文、「インドネシアの水中
考古学」、94-96頁



世界はなぜ
水中文化遺産に
注目するのか
最新の動向をふまえて
その重要性を説き起こす
DOJIN SENSHU